

令和3年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年5月20日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並みか少ない	平年並みか多い

○6月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
カンシヨ	① ナカジロシタバ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② イモキバガ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移(↗)
さとうきび	メイチュウ類 ① (カンシャシクイハマキ、イネヨトウ)	並	↘	並	芯枯萎率の平年の発生量の推移(↘)
（温暖地）	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② そうか病	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↘)
（タカシ）	① かいよう病	並	→	並	今後1か月の降水量が平年並みか少ない見込み
	② そうか病	並	↘	並	今後1か月の降水量が平年並みか少ない見込み
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
マンガ	① マンゴーハフクレタマバエ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	② ハダニ類	多	↗	多	今後1か月の降水量が平年並みまたは少ない見込み
ヘチマ	① ミナミキイロアザミウマ	やや多	↘	並	平年の発生量の推移(↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○6月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
オ ク ラ	① チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	5月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾・開花期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	ドクガ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、一部圃場で若齢幼虫が多数見られた。施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。
へ ち ま	ワタヘリクロノメイガ	ワタヘリクロノメイガ（ウリノメイガ）等の幼虫が多く見られ、若齢幼虫は葉裏から葉肉を食害するので葉は白く膜状部を残すのみとなる。老齢幼虫は巻き葉内におり、殺虫剤が効きにくいので、若齢期の防除が望ましい。登録農薬を散布する。
オ ク ラ	マイマイ類	樹上に移動し、葉を食害する。樹上に移動すると防除が困難になるため、定植前や作物にかからないようには場周辺に登録農薬を散布し、密度を低減する。樹上に移動した場合は捕殺に努め、登録農薬を散布する。

令和3年度 宮古群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和3年5月20日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並みか少ない	平年並みか多い

○6月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ、 イネヨトウ)	並	↓	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↓)
	② バッタ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
オクラ	① フタテンミドリヒメヨコバイ	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	② アブラムシ類	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	③ チョウ目幼虫 (オオタバコガを除く)	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	5月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
	チャノキイロアザミウマ	一部ほ場の新葉で発生が確認されている。対策は、不要な新梢やコミカンソウ類など雑草の施設外への除去を行う。

令和3年度 八重山群島 病害虫発生予報 第3号(6月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和3年5月20日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並みか少ない	平年並みか多い

○6月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
さとうきび	メイチュウ類 ① (カンシャシンクイハマキ、イネヨトウ)	並	↓	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移(↓)
	① チャノキイロアザミウマ	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)
マンゴー	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
	① うどんこ病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	② フタテンモドリヒメヨコバイ	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
オクラ	③ オオタバコガ	並	↑	並	平年の発生量の推移(↑)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	5月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。培土時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で本種の発生が確認されている。防除は、特に新植の夏植サトウキビについて薬剤防除を徹底する。収穫間際のサトウキビほ場がある場合は、薬剤のドリフトに注意する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。